

第 70 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

光塩女子学院高等科 2 年

佐伯 理奈

課題②

次期国連総会において、あなたが一般討論演説を発表するとしたら。

私の住んでいる地域では、毎年 8 月のある朝にチャイムとアナウンスが流れます。普段と同じ朝の、普段とは違う時間—。毎年、8 月 6 日午前 8 時 15 分に流れるチャイムは、普段と同じ朝を迎えた広島の方たちの未来を一瞬のうちに奪った悲劇を思い出させ、同時に、まだ世界からは戦争や核兵器の脅威がなくなっていない現実を知らせます。

広島原爆の犠牲者である豊嶋長生さんの血染めの学生服を見た時の衝撃を私は決して忘れることはないでしょう。東京都八王子市にある「平和・原爆資料館」で目の当たりにした「惨状」は、私に震えるほどの絶望と恐怖を与え、そして、地球上のどの国でも同じことが起きてはいけなと心に刻み込むのに十分なものでした。この機会をきっかけに、私は太平洋戦争中の東京大空襲、沖縄戦や広島、長崎原爆について本や資料で情報を集めるようになりました。教科書や新聞では、「数」で表記されていた戦没者、被爆者の一人一人に名前があり、家族も人生も夢もあったことを受け止めました。凄惨な過去を学ぶのは苦しくて、悲しくてたまりません。しかし、時には光景が夢に現れて、涙を流しながら起きることもあります。この悪夢を決して現実にはしてはならないのです。

世界から戦争がなくなる理由や、多くの人々の未来を一瞬で奪う兵器がなくなる理由は、ごく一部の凶暴な思想や憎悪を募らせる人たちのせいでしょうか。私はそうは思いません。私は大勢の無知、無関心が一番の原因だと考えています。無知、無関心というのは、学ぶ意志がないことのみを指しているわけではありません。機会やタイミングを適切に与えられていないことに対しても言えます。私もあのときに、豊嶋さんの学生服を見る機会がなければ、何も知らないままだったかもしれません。8 月に流れるチャイムを聞いても何も感じなかったかもしれません。SDGs 第 4 の目標「質の高い教育をみんなに」の通り、全ての人に教育の機会が与えられ、大切なことは何度も伝え、何度も考える環境がないといけません。

私たちが歴史を学ぶのは、テストで良い点を取るためではありません。過去を知り、未来をより良いものにしていくためです。国も人種も宗教も感情も見解も関係なく、事実として広島と長崎に原爆が投下され、結果として正確な数が把握できていないほどの多くの命が一瞬で散ったことを世界中の人々が知ることが重要です。そして、今もこの世界には戦争も核をはじめとする大量の兵器があることに對して危機感を持たなくてはなりません。

現在の日本は、戦争体験や記憶の風化が問題となっています。私はそういった報道を見聞きするたびに焦燥感に駆られていました。そんなある日、世界中の学生が交流を図るオンラインイベントに参加し、私はアメリカ人の高校生から話しかけられました。彼女は学校の授業で原爆投下の歴史を

知り、日本人の私に声をかけてくれたのです。「あの歴史を繰り返してはいけない」。彼女の言葉は、私の気持ちと同じものでした。平和に対する想いの繋がりを感じ、胸が熱くなりました。

第二次世界大戦の反省と世界平和実現の強い意志から、1945 年に国連は生まれました。「国連憲章」では、戦争を禁じています。私はこれからも国連が平和の旗を力強く振り続けることを願っています。その一環として、国連に世界平和に対するあらゆる世代の機会を設けることを強く求めます。同世代の声は、同世代の相手の心に響くと考えています。

人間には、「想像力」という素晴らしい能力があります。自己紹介をし合い、対話をすることで相手をよく知り、想うことができるはずです。そして、想像力は世界平和への具体的な行動に繋がります。「世の中、そんなに簡単じゃない」と言う人もいるかもしれませんが、でも、私たちがより良い世界を想像し、それに向かって行動する以外に世界平和を叶える方法はあるでしょうか。

たった今も地球上には戦争が存在します。苦しんでいる人が大勢います。その人たちが一日も早く普段の朝を取り戻せるよう、私たちがいつまでも普段の朝を迎えられるよう、世界中の人々の心を繋ぐときがまさに今なのです。

ご清聴ありがとうございました。